

クリスマス

知っておきたいキリスト教のことば (64)

クリスマスという言葉は、日本でも一般的です。この時期が近づくと、街中がイルミネーションで飾られます。しかし残念ながら、本当の意味はあまり伝わっていないようにも思います。

幼稚園の礼拝で、子どもたちに「クリスマスって何の日？」と聞いて最初に返ってくる答えは、「サンタさんの日!」。その他にも人によって、いろいろなイメージを持っているようです。プレゼントをもらえる日（渡さないといけない日）、恋人と一緒に過ごす日、ケーキやフライドチキンを食べる日などなど。



どうも日本では商売の片棒を担っているような気もしますが、そもそも「クリスマス」とは、「イエス・キリストの誕生日」を祝う日です。クリスマスという語自体も、「クライスト(キリスト) マス」、つまりキリストの礼拝を意味しているのです。

ですからクリスマスは、イエス様のお誕生のお祝いです。といいましても、イエス様の誕生日は聖書の中には書かれていません、12月25日をイエス様の誕生日と定めたのは4世紀中ごろであり、ミトラス教という異教の「光の祭り」が起源であるという説が有力です。したがって正確にいうと、12月25日はイエス様の誕生を記念する日ということになります。

クリスマスとクリスマスイブ（12月24日）には多くの教会で、礼拝がささげられます。クリスマスキャロル（賛美歌）の中には聞いたことのある曲もあるかもしれません。礼拝時間は教会のHPで確認してください。

「きよしこのよる」、「あらののはてに」、「もろびとこぞりて」などを一緒に歌いながら、イエス様があなたの元にもきてくださっていることを感じていただけたらと思います。クリスマスはどうぞ教会へ！

次回は「啓示」です。お楽しみに。